



Create Hope in the World

『世界に希望を生み出そう』

2023-2024年度RIテーマ 会長 ゴードン R. マッキナリー

■ 点鐘/12:30 ■ 例会場/山形グランドホテル:アドリア ■ 出席報告/47名(会員数 89名)

会長メッセージ

慶応大学応援部が守った約束

きらやか銀行が都市対抗野球の応援コンクールでトップ賞を獲得することができたのは、先週お話ししたスポーツ県民歌に加え、慶応大学応援部の存在がありました。

きらやか銀行には自前の応援部はないので、東北予選は、応援団長の経験者一人と人事部からの「業務命令」で集められた若手行員の急造チームが応援団をリードしていました。もちろんプラスバンドやチアリーダーはありません。しかし本戦(東京ドーム)は応援コンクールがあるのでそういう訳には行きません。そこで慶応大学応援部(リーダー部・チアリーディング部・吹奏楽団)の力を借りることになりました。正式には「慶應義塾大学応援指導部」といいます。行員約20名が実際に横浜にある大学キャンパスまで行って指導を受けましたが、プラスバンドとチアガールは慶応応援部です。

いよいよドーム本番となり、私も実際に見て驚きました。リーダーもチアもものすごい運動量でこれは頼んでよかったと思いました。トップ賞を取ったのは、出場2回目(2017年)のHonda鈴鹿戦で、この時は銀行以外の方も含め7千人位がドームに来て下さいました。審査委員会のトップ賞の評価ポイントは、「花笠踊りなどの郷土色豊かなパフォーマンスとスタンド一丸となった声援」という点でした。トップ賞獲得は慶応応援部にとっても名誉なことですので、一緒に喜んでくれました。

しかし翌年(2018年)は、残念ながら予選で敗退、3年連続出場はなりません。その時、慶応応援部の渉外担当M君から「今年は残念だったが来年は出て欲しい。その時は絶対に私たちに応援をやらせて欲しい。」というメールが来ました。なぜかと聞くと、彼らは都市対抗で色々な会社の応援を引き受けているのですが、「あんなに社員や応援に来た人たちが真面目にひたむきに応援に加わってくれたのはきらやか(山形)の人たちだけで、だからスタンドに一体感があり、自分たちとしても

とてもやりがいがあった。」というのです。

そして次の年(2019年)、3度目の出場を決めた時、また慶応応援部が引き受けてくれました。応援団席で主務になったM君に会いました。「去年田中さんとした約束を守りました。実はきらやかより先に出場が決まった会社から依頼があったんですが、きらやかとの約束があったので断っちゃいました。」と言うのです。私はM君が約束を守ってくれたことを心から感謝しました。



それで話は終わりません。しばらく後、たまたま銀行の関係でY社の方と面談する機会がありました。Y社は誰でも知っている大企業で、その年数年ぶりに都市対抗に出場したので自然にその話題になりましたが、「実は慶応応援部に頼んだら、『期末テストがあるから』という理由でやんわりと断られてしまいました。」と言うのです。私の中で2つの話が結びつきました。M君は、あろうことかY社の依頼を断ってきらやかとの応援を選んだのです。

M君が独断で決めてしまったのか相談して決めたのか、その結果その後の彼らの就職活動に影響があったかは知る由もありません。ただ、慶応の学生にそれほどまでに「あの人たちとまた一緒に応援したい。」と思わせる何かを、山形県人は持っていると感じました。そういう真面目さやひたむきさこそ、山形の人と風土が持つ「ホスピタリティ」と呼べるものなのではないかと思います。

国歌・ロータリーソング



本日の指揮はピンチヒッターの高橋一夫さん

幹事報告



與田幹事

四つのテスト 真実かどうか みんなに公平か 好意と友情を深めるか みんなのためになるかどうか

1950年8月5日 RI加盟承認 承認番号7587号(なごやか)
■ 例会/毎週水曜日12:30開会点鐘 第5週18:00開会点鐘 ■ 例会場/山形グランドホテル
■ 事務局/山形市十日町1-1-26-2F ■ TEL:023-632-7777 ■ FAX:023-624-5200
■ E-mail:yamagata09@rid2800.jp

ホームページはこちらから

パスワードは事務局へ
お問合せ下さい。



